

対談
雌伏四年で気付いた敬神崇祖尊皇愛国

知識よりも経験に裏打ちされた感性、感覚、霊性、目に見えないものを大事にしたい。



城内 実 ■衆議院議員・拓殖大学客員教授

井尻千男 ■拓殖大学日本文化研究所顧問



自民党凋落の理由

井尻 城内さんは郵政民営化に反対して四年前に自民党を離党されて、今回無所属で当選されました。大変な努力をされたとお察ししております。しかし小泉民営化もあつという間に又覆って今、亀井さんが中心になって新しい在り方を模索していますね。

城内 郵政民営化の見直しです。

井尻 見直しという事は結局、公企業にするのかどうかですが、その種の言葉は余り出てませんね。

城内 そうですね。民営会社から公社に戻すというのは格だと思えます。そう思っている時に志の高い政治家達が反対して、平沼さん、城内さんその他が離党までされて戦って下さったという事に対して、私は国民の一人として深く感謝しています。

城内 中央の皇室と地方とが山間僻地まで細い糸で繋がれている。これが正に郵便局のネットワークなのです。これを断ち切るといのはやはり日本の国体を破壊する事に繋がるのではないかと思います。しかし、この感覚がわかる人は実は凄く少ないのです。私は落選してからの四年間ずっと中山間地域、僻地を回りましたが、回れば回る程やはり確信を深めました。郵政のネットワークというのは本当に一万余千局の郵便局がそれぞれ離島にも山奥にもある。これは日本の先人、御先祖様の汗と涙と知恵や工夫でできたものです。それを大事にせずに単に経済合理性で……。しかも百歩譲っても郵便事業は黒字なのです。国鉄のように赤字ではないのです。だからおかしな改革をする必要はないのですけども、先人の方々が頑張ってやってこられた事を一顧だにせず、しかもグローバルスタンダードといながらアメリカだけが主張している、本当はスタンダードでも何でもなくてヨーロッパなどは非常に距離を置いて冷ややかに見ているものに、恰もバスに乗り遅れるなとかのように規制緩和だとか、官から民へというわかり易い

難しいので、取り敢えずバラバラになっている会社を少し纏めて、売買を国がある程度コントロールできるように株式をどこまで保有するのかとか、そういう見直しです。

井尻 全国規模の郵政三事業はどんな山間僻地に住んでいる国家共同体のネットワークです。その中枢には天皇陛下がおられる訳で、これは国体論からいうと物凄い歴史的財産です。それを市場原理などという埃っぽい話で解体するというのは政治家のいうべき事ではありません。エコノミストが思い付きでいうなら笑って聞き流して良いのですが、国家を預かる政治家がそういう歴史的な国家共同体のネットワークを惜し気もなく切り刻むというのは政治家失

けど極めて怪しいスローガンの下でやってしまいました。そこにこの不幸がある訳です。

井尻 だから考えてみると、自民党の凋落というのは平成二十年間の、いわゆる改革の結果だと思ふのです。今まで地域共同体の農、工、商に携わってきた人々が日本を支え自民党を支持してきました。しかしこの農、工、商が次々と自民党によって解体されてきたのです。その最後に郵政という運命共同体的ネットワークが解体されました。

私は自民党の国家観がここまで駄目になったのかという思いがあります。ですからちょっと巨視的に見ると、自民党が今日のように野党になったというのは必然だったのだらうというぐらいに突き放して見ているのです。勿論農、工、商、各論に至れば単純でない事はわかっていますけど。

地域社会や国家を支えてきた人間達がどうして自民党に失望してしまったのか。片や民主党は一種のばらまきでそういう不満を今民主党の方に引き寄せようとしているに過ぎないと思つているので、民主党で日本が良くなるとは思つていません。ですから、心ある政治家達がここまで解体された日本をどう再建するのかという事で、超党派の志を同じくする人達に集まっていたいただきたいという期待があるのです。城内さんも恐らく切実にそう考えてきたと思うのですが、その辺の理想論も含めて語っていただきたいと

思います。

城内 私は今年は政界再編の年にしたいと思っています。今、坂本龍馬が流行っておりまますけれども、坂本龍馬というのは仲が悪い薩摩と長州に手を組ませて、薩摩・長州の薩長連合を作り、古い体制を潰して明治維新の礎を築いたという人です。それになぞらえていえば少数無所属会派である平沼グループを中心に自民党、民主党の心ある人と連携して政界再編を一気にやりたい、平成維新元年にしたいなと思います。自民党はもう保守政党としての機能を失っているのではないのでしょうか。今、在日外国人の参政権について谷垣総裁が反対の立場を表明され、一所懸命保守をアピールしようとしています、遅きに失した感がするのです。

自民党の凋落の理由というのは幾つかあると思います。一つは井尻先生がおっしゃったように小泉・竹中構造改革路線という保守主義と相容れない新自由主義経済に対する決別、あるいは総括がきちんとできていない事です。本家本元のアメリカにおいてすら見直しが行われているにも拘らず、それを否定も肯定もせずにするやっていますという事が一つの問題です。

二つ目は未だ与党時代の残像が残っていて、国民から見ると反省が足りないという感じがすることです。去年の選因です。日本の会社の九五%以上は中小企業なんです。経団連には入っていないのです。

井尻 自民党はそうやって野党に転落した訳だけれども、まだ根本的な総括はやってませんね。未だに小泉的なる改革論が続いています。そういう意味で自民党に対する絶望感というか、もう期待してもしょうがない、となるとやはり政界再編をしてくれという期待感が物凄くあると思います。少なくとも何十年か自民党を支持してきた、地域社会の農、工、商のリーダー達は本当に絶望感が深いと思います。

城内 そうですね、やはり井尻先生のおっしゃるように自民党もどうしようもないです。しかし民主党にやらせてみたらもっと酷かった。二月一日現在、例の政治と金の問題で鳩山総理の御母堂からの所謂子供手当て、そして小沢一郎幹事長の資金管理団体の土地購入問題が出てきて、民自党は昔の自民党の金権体質と変わらないじゃないかという見方が出てきています。私の静岡七区という選挙区は非常に特徴的として、自民党の現職、民主党の新人、そして無所属の前職の私という選択肢が三つあった訳です。他の選挙区は自民か民主どっちかです。そういう意味では有権者にもう一つのしっかりした受け皿が必要でです。日本の伝

挙直後に、議員控え室を明け渡す明け渡さないで自民党と民主党が揉めたことがあります。そのときも自民党はもう五〇年近く使っているのだからなどと言っていました。私ならそんなみつももない事を言わないで、「私達はもう反省して国会議事堂内の議員控え室は一切要りません。会合も廊下で立つてやります」と言います。そしてその日から総裁以下幹部を含めて国会議員、落選議員も含めて毎日街頭に立って「我々自民党は反省しました。小泉・竹中改革と決別します」という事をしでもすれば変わったと思うのですが、未だに野党時代の民主党みたいな足の引っぱり合いをやっていて、この体たらくたるやどうしようもないです。

三つ目はやはり当時マネーゲームをやっている人達、あるいは経団連の一部の方々のような、自分達が中国でビジネスしたいので靖国参拝をやめてくれという事しか考えない人達に媚びを売って追従して、今まで長年、こつこつ票とお金を貢いでくれた郵便局長会あるいは中小零細企業の皆さん、農業者、医師会、歯科医師会、そういった自民党の組織を支えてくれた人達を裏切るような事をやる。新自由主義経済なんてその時だけの流行のマネーゲームをやるようなライブドアの堀江氏とか村上ファンドだとかああいう人達、あるいは経団連という極少数のはっきりいうと

統文化を大事にする新しい保守。保守というのは自民党が散々言ってきたから手垢が付いて使うのが嫌になってきてしまったので、保守ではなくてはつきり言う、敬神崇祖尊皇愛国です。神を敬い御先祖様を大事にして御皇室をしっかりとお守りをして国を愛する。この言葉がよくわかっている人達が新しいグループを作れたら日本は非常に変わると思うのです。

節目節目に伊勢神宮を参拝

井尻 今まさに平成維新の時なのです。では昭和維新は何だったのかと考えると、昭和四年の世界大恐慌をいかに切り抜けるかという事から昭和維新運動が始まるという良いと思います。結局その昭和維新運動が国体の本義という、今正にあなたが言ったように日本の国体、つまり天皇を中心とした神や仏を敬い、共同体を大事にし、歴史を大事にする、それが正に国体という言葉に収斂していると思います。

政治思想や国家の歴史、そういう事を全て考えながら政治を立て直していただきたいというのが私の期待でもあります。城内さんが抱いている思いと連帯できる政治家の数が多いとは思いませんが、話せば通じる人はいるのではない

いでしようか。

城内 いらつしやいますね。現に自民党の中にも民主党の中にもいらつしやいますし、実をいうとそういった共通の政治信条をお持ちでありながら余りそれを前面に出さないうで胸に秘めている方もいるような感じがします。私自身も元々は帰国子女で、小学校一年生から四年生までは西ドイツの小学校だったので、どちらかというと外国かぶれの部分もあったし、何となく西洋文明の方が良いのかなって思っていた時期もありました。今は正に敬神崇祖尊皇愛国、そして日本民族の使命というのは何だろうなどと、古事記の神代まで遡って考えるという事をするようになりました。年を重ねるにつれて私は気付いた訳です。ですから他の方だつて、それこそ左派といわれている方だつて、戦後の教育で気付かされていない事に気付く余地が十分あると思つています。だから私は楽観主義者なのです。

ここ迄来るのに色々自分でも「本当かな」とか「どうだろうな」と思い、やっと確信に至ったのが正に敬神崇祖尊皇愛国なのです。私は一泊二日で伊勢神宮に行き、昨日は早朝参拝してきました。落選してから伊勢神宮に行くようになったのですが、何でもっと早く行かなかつたのだからと非常に後悔しました。それ以来、反省の意味も込めて毎年節目節目に四回ぐらいは行くようにしておりますが、

いうのは大事です。ですから少数者だけ集まつて傷を舐め合つたり威勢の良い事を言っているだけでは駄目です。自分の選挙で落選してからの四年間を振り返ってみますと、兎に角当選する事を考えていました。だから「郵政民営化は正しい」とマスコミで刷り込まれている人達に「郵政民営化はおかしい」と幾ら言つても理解していただけないので、そういう人とは郵政民営化問題については議論するのをやめました。ひたすらお願いして、天下を取る為には国会議員にならなければいけないということに徹する。しかし、かといつて自分の信じる事を捨てたりはせずに、伊弉諾尊の精神で、変な勢力とは同じ土俵で戦わないでこつこつやってきました。ですから今後も政界再編という場合には、この人は自分と同じ思想ではないからとか、あるいは靖国神社に対する考え方が違うからという理由で排除するのではなくて、もう少し懐を広くすること、これこそが私は日本精神だと思つたのです。正に古事記に書いてあるように、神様は皆良い事ばかりをするのではなくて、須佐之男尊みたいに暴れたりする人がいてもしょうがないのです。だけれども温かく包み込む伊弉諾尊、天照大御神様の精神で太陽は皆を平等に照らしてくれています。それが私は日本の精神だと思つているのです。ですから変な人は駄目ですけど、その精神でなるべく広く包み込みながら数を増やして

外宮、内宮を参拝する度に「この感覚が日本なのだ」と。そこに正に敬神崇祖尊皇愛国が、国旗・国歌について法律を作るとかのレベルではなくて、感覚として、そして日本民族というものを知識や知性ではなくて感性とか霊性でわかるようになりました。だからまだ、そういう域に達してない勿体ない方が沢山いる筈です。本物に接すれば自分のように日本人としての誇りや民族としての覚醒になると私は確信しています。

井尻 今城内さん、帰国子女という言葉を使いましたが、日本に住んでいたつて戦後の日本人は皆帰国子女みたいなものです。ドイツにしようが日本にしようが帰国子女ですよ。戦後日本というのは歴史に対する無知という意味では帰国子女同然です。ですからそういう一億の帰国子女達が敬神崇祖尊皇愛国という今城内さんが使われたこの言葉にやつと気付き始めたのです。自民党そのものがそういう根本を忘れてしまったのではないか。

さて、しかし現実の政治を見ると、その日本という国の本質に気が付いた政治家達がどういう形で結集してくれるか。期待しています。けれども政治というものはどこか数だという、どうしようもないものがありますね。

城内 そうですね、日本は曲がりなりにも北朝鮮や中国と違って民主主義という形をとっておりますので数の力と云つて、その人達と切磋琢磨しながら先程の敬神崇祖尊皇愛国というものを、知識や知性だけではなくて感性や霊性にわかるようにやつていければ良いなという風に、私は現実主義者でもありますから考えています。

井尻 いま話の中で「霊性」という言葉がぼんと出てきた。城内さんは何か随分深いところを掴んだのだなあ。政治家というのは大袈裟に言えば国家の運命を握っているようなところがある訳です。素晴らしい政治ができれば一〇年で国は栄えるし、間違えた政策を一〇年続けたら国は滅びます。ただ、どこか霊性とか超越的なもの、神や仏という言葉を使つても良いのかも知れないけど、そういう感覚を持つている事が政治家の必要条件だと思つた。今城内さんが「霊性」という言葉を使った、その一言で政治家城内実の考えている国家観というもの深さを私は察知するのです。

城内 政治というのは政であり、政というのは地上界の人間と天上界の神が交わると同時に、政治というものも政な訳ですから神様を抜きにしてやつて良いものだろうかと思つたのです。私は知識よりもそれを身に付ける知性や、更に知性だけではなくて経験に裏打ちされた感性、感覚、霊性、目に見えないものを大事にしたいと思つたのです。それは神であり仏であり、故郷を愛する気持ちや別に平和

でも良いのです。鳩山総理がよく使っている「友愛」という二文字だつて良い訳です。そして自然を大事にする。そういうものを考えて政治をやらないと、「一足す一は二」とか、これだけ貯金をはき出せば経済成長がこれだけできるというような事では駄目だと思ふのです。やはり常に陛下の大御心、そして我々をお守り下さっている高天原にいらつしやる神々の大御心は奈辺にあるのかなと、時々思うぐらいでないと思ひます。

又私は今回の選挙はどうして僅差ではなくて大差で勝つたのかなと考えました。日本で最も知名度の高い自民党の現職の方と七万五千票差で、しかも民主党の新人候補はNHKのアナウンサーですから他の選挙区で出れば断トツです。私一人の力だけで勝てる筈がないのです。それはそこに目に見えない地元の皆さんや全国の皆さんの「城内を何とかしたい」という思いが天に通じたと思ふのです。私の使命は敬神崇祖尊皇愛国だから御皇室を何とかお守りしなければいけないと思つているので、多分そういうものが通じて非常に色々な落とし穴や罠やそれこそ陥穽というものがあつたにも拘らず、私が知らないところで全てうまく嵌まらなかつたのです。無所属議員候補者というのは本当に三重苦四重苦なのです。政党交付金という国民の血税で賄われてゐるものが一円も貰えません。選挙期間中は政見放も知れませんが、やはりそういう事だと信じて兎に角やつと又復活できた訳です。

どこかで神を意識するのが本物の政治家

井尻 それは御苦労もされたらうけども、今お話を聞いていると、城内さんが本物の政治家、理想の政治家という言葉を使つてしまうと甘過ぎるかも知れませんが、本当に政としての政治の本質に開眼したというか、何かそういう感動を覚えますね。

城内 七四八票差で前回落ちたのも、神のなせるわざではないかなと思ひます。四年間物凄くありがたいチャンスを与えてくれたのです。選挙区は田舎ですからそこで正に感性、霊性が磨かれて伊勢神宮に行くというきっかけも与えられた。一つのストーリーになつているところが何か不思議だなという感じがします。

井尻 そうですか。だから今の城内さんの言葉を要約すると、『神皇正統記』の最初の一行「大日本国は神の国也」という言葉に収斂されるような本当に良い政治家がここに誕生しました。少し客観的な物の言い方をしますと本物の政治家というのは、どこかで神を意識しないと成立しないような、つまり、今城内さんにそういうあらまほしい政治

送ができません。だから最初から二万票三万票差のハンデイを背負わされているにも拘らず圧勝できたという事はもう神懸かり的な事としか思えません。私が少し心掛けた事を一ついえるとしたら、各地区に小さなお宮がありますけれども、周りに見えないところでこっそり本当にほんのちよつと「この地域の皆さんが幸せでありますように」という祈りをした事です。そういう事を各地区でなるべくするようにしたので。

お伊勢参りのときにも、決して自分や家族あるいは選挙の事を祈らずに三つの事だけをずっと祈っています。一つ目は天皇陛下及び皇室の弥栄、二つ目は神国日本の繁栄、三つ目は世界人類の平和、この三つです。やはり公人を目指している訳ですから、私だけ選挙に勝ちたいとか、自分の家族だけ幸せになりたいというのは、一般の民間の人はそれで良いと思うのですけれども、国会議員たるものはそれではいけないと思ひ、この三つに徹しました。多分神がそこら辺を見してくれたのではないかなと思ふのです。私ははつきり言いますが、これまで神秘体験ゼロですから、目に何にも見えないし感じもしません。しかし、余りにもよくでき過ぎているので、きっとこれは神様が「お前にも一回チャンスをやるからしつかりやれ」ということではないのかなと。これは証明もできないし私の空想の世界か

家の必須要件を感じますね。戦後の政治というのはそういう言葉を全部忘れ去つた形で、それを東京裁判のせいにして良いけれども、戦後の極めて世俗的になり過ぎた政治事ではあるけども、ただそれだけになつてしまいました。そういう政治の現状を城内さんは無所属という、ある意味で孤立はしているけども自由でもあつた訳ですよ。その孤独であり且つ自由である、そこに直接的に国民というか選挙民に訴えていく、地域を回る、そういう一種の行ですね。城内さんが運動靴を履いて走っている姿をテレビ映像で見ましたけども、城内さんは行をやつていたのでしょうね。

城内 そうですね。多分あのまま当選し続けても単に薄っぺらい政治家で終わってしまった可能性もある訳です。この四年間で未だ足りないかも知れませんが、人に対する優しさというか、やはり落選してみると落選した人の気持ちもわかるようになりますし、また人の肩書きとかではなくて、その人の魂とか生きてきた人生の歴史とか、そういうものから入れるようになってきましたね。ですから逆にいうと、幾ら教養が高くても知識が豊富で肩書きがあつたとしても、ちよつと価値観が違うという人が出てくるようになります。

井尻 いや、このように今まで戦後の日本の政治家が忘れてしまった言葉が次から次に城内さんの口から出てくる事に私はある種の感動を覚えます。多分、神は良い試練を与えたという事でしょうね。そういうことを要約してしま

うと、保守というものの本当の意味は、今城内さんが語った事こそが本当の保守です。ですから城内さんからしてみると、そういう事がわからないで保守といつている保守とは余り付き合いたくないという気分が、多分心の底にあるのではないかと推察します。しかしそうはいつても現実の政治になりますと、民主党の今の政権が事によつたら五月に崩壊するか七月に崩壊するかわからないけども、急速に崩壊すると私は思います。小沢幹事長の大スキャンダルも未曾有だと思えます。政治家が不動産を巨額の金で全国各地に取得するというあの暗さ。鳩山総理大臣の母親からの子供手当十何億円。こういう二つのスキャンダルと米軍の普天間飛行場の移設問題等々で行き詰まって内閣崩壊、政界再編というような事態に突入するかもしれない。さてそういう事態を前にして城内さんが本当に旗を立てる時が来るのではないかと思うのです。私は平沼さんという政治家も立派な政治家だと思っています。しかし決断力、行動力という事からいいますと、やはり「今立たなかつたら時期を逸する」と思っているのです。そういう平沼さんと一

的に見てもそうですけども、日本国内に於て一番高まった時期です。私はそういう昭和三十年に自民党の先達たちが「階級政党ではなく国民政党なのだ」と自らを規定したその意味の深さというのを今こそ考えるべきだと思っています。その最大のポイントは階級政党にしてしまったら天皇という存在をどのように位置付けるのか。天皇を戴いているこの国の政治体制はやはり階級政党では駄目なのです。階級政党論というのは、この日本列島に住んでいる一億二千万の国民を分離して対立させてしまうのです。国民という概念の中で、そのど真ん中に天皇がいらっしゃるのだという事を先達たちは深く考えていて、その結論として昭和三十年（一九五五）という東西の冷戦が物凄く高まっている危機の中で、国民政党と自らを規定したのはなかなかの国家観だったと思うのです。城内さんとお話していて、やはり国民政党論というのは、今又再びそれを言わなければならぬ時ではないかと思つたのですが、どうでしょうか。

歴史を踏まえた政治思想の再構築

城内 本当にそのとおりですね。私はよく自分の活動で「万民幸福」という言葉を使うのです。これは皆が幸せになれる事です。国民政党である以上は大企業やマネーゲーム

番深い付き合いをしているのは恐らく城内さんだろうと私は睨んでいるのです。そうすると城内さんが平沼さんの背中をドンと押して、城内さんが暴れるというか、本気になる時がもう迫っているのではないかと気がします。

城内 そうですね。機会を捕らえて物事を起こすというのは大事です。私が好きな言葉は「慎重且つ大胆に」です。通常はこつこつ水面下で努力して、やる時には一気呵成に動くという事が大事だと思います。私は新党という言葉は好きではないのですけれども、ただ、本当に第三極というものを作るのであれば、自民党にはこんなグループがあつて平沼グループでこれだけで他にも……という昨今のように保守が乱立しているのではなく、やはり何か大きな求心力を持った一つの受け皿が必要です。最初は三〇人ぐらいでもいいかも知れません。しかし将来は衆議院参議院で過半数取る事を目指す新しい国民政党、責任政党を作るべきです。保守をやたら前面に出すよりも、日本国民が自然な形で日本に目覚めるような、日本国民に対して日本国民である事を覚醒させるような政党を作るべきなのです。

井尻 そうですね。国民政党という言葉が城内さんから出ましたからその国民政党論についてちょっと申し上げたいと思います。保守合同したのは昭和三十年ですね。昭和三十年というのは階級政党論あるいは階級闘争史観が世界

をやっている人だけを応援するような少数政党では駄目なわけです。中小企業の方はもちろんのこと旧社会党の労働組合の組合員、あるいは正に日本共産党の皆さんが一所懸命やっているような生活保護を受けていらっしゃる人達も含めて全部包み込むような国民政党というものを作らなければいけないと思います。民主党が今失敗しているのはそういう中で対立軸なのです。私がかつて自民党の最高幹部だったから、古き良き自民党のように懐の広い国民政党になるように努力して、やたらと官僚バッシングをして対立したりするのはなくて、彼らを使いこなすようにします。かつての自民党の悪いところである金権体質はやめてクリーンにします。しかし、今は逆ですよ。官僚はどうだとかいうイデオロギー的なくだらない対立軸をいっぱい作っておきながら、体質は古き悪しき自民党の金権体質が民主党の最高幹部の方に残っています。殆んど漫画みたいですが、私は無所属だから自民党、民主党の両方の良いところ、悪いところが非常によくわかるんです。自民党も政治と金についてワアワア言っているけど何か目鼻鼻を笑うみたいな、国民から見ればそんな感じですよ。やはり新しい国民政党というのを作っていくきっかけを作っていきたいですね。

井尻 そうい国民政党の綱領を書くとなると、城内さんです。城内さんが今お話し下さったような事をコアに

しながら、国民政党内のほうはこういう国家観であり、この政治だと言拳げを私は是非城内さんにしてほしいと思います。

城内 古事に書いてある精神から見れば右とか左など下らないことです。皆を包み込む、それが本場の日本精神だと私は感じます。だからそういう右や左、保守や革新というものを超えて、日本人が日本人として目覚めていく。その日本人というのも、今生きている人達だけではなくて、御先祖様に敬意を持って、彼等の払った努力や流した汗に感謝して、そしてそれを次の世代、さらには我々が決して会えない子々孫々にまで受け継がせるという感覚を持った人達です。

井尻 そうですね。イギリスのチェスタートンが「正統とは何か」というエッセーの中で、多数決という事をこのように論じる訳です。「たまたま今生きている人間達だけの多数決では不十分なのだ。やはり曾て生きた人達を含めての多数決こそが真の多数決だ。だから死者には墓石を以て投票せしめよ」と。墓石を投票用紙のように考えた訳ですね。そういう考え方が正統でありオーストックスだ。わが国の場合、その中心に天皇という存在を考えればレジマシーというか、そういう正統性がはつきりする。政治哲学というか政治思想を、日本人は日本の歴史を踏まえて

ているように思っ、つい日本の保守派はイギリスをモデルにしたがりませ。しかし「イギリスのような保守党と労働党の二大政党論になっていく、それは我が国体から見ますと良い教師ではありません」と私はむしろ断言したいのです。最近そういう「二大政党論の罨」というキーワードを使って何篇かエッセーを書いたのですが、イギリスをモデルにすると二大政党論という罨に嵌まってしまう。やはりイギリスの王室と日本の天皇は違うのだと私は思います。イギリスの王室はどちらかというと階級論から見るのと階級ピラミッドの頂点に位置付けられがちですが、日本社会はむしろピラミッドよりも円盤型社会です。単純にいいますと、その円盤のど真ん中の中心に天皇がおられるのです。そういう事を考えると二大政党論のイギリスにモデルを求めるのではなくて、やはり国民政党内こそ日本は考えるべきです。国民政党内が与党になって、勿論言論の自由も世界観も色々違いがあるから少数の野党もあり、それは時代や国際環境の中でどういう連帯をするかというところで、大いに政治のダイナミズムになり得るのです。私はそのようなイメージで自民党に再び「立憲の精神」を掲げてもらいたい。いや、それは何も自民党の十八番でも何でもありません。日本の歴史を考えればそうなるのですから、やはり城内さんが中心になって、国民政党内という政治論、政

再構築する必要があります。そうすると天皇というご存在が国民にとつて新たな希望の光になるかも知れないし、しなければいけないと私は思います。政治活動でお忙しいとは思いますが、そういう事を城内さんには、やはり政治活動でどんどん表現していただきたいと思うのです。そうすると政治家の城内さんが話した事を十倍二十倍ぐらいに膨らますのが知識人の役割でもありますので、そういう言論状況を政治家と言論人が一緒になって作りましょうよ。

城内 是非お願いします。こういう事を言う誤解があるかも知れませんが、そもそも議院内閣制も含めてどうしてもこれはイギリス型といえますか、要するに外国から借りてきているものなのです。制度として定着していることは良いのですけれども、かといってそれが絶対ではないという事に気が付きながら、では日本型としてはどういうやり方でやるのかという改善策をずっと日本は考えずにきました。木に竹を接いでしまっている以上はしようがないのかも知れませんが、接がれているのは竹だという認識、自覚を持ちながらきちんとして、やはり日本の国柄や国体に思いを馳せながら政治を考えるようにしないと、何か非常に時間とお金の無駄遣いをやっているようにしか私には見えません。

井尻 確かにイギリスも王室をお持ちで日本と国柄が似ていて、党論の声を挙げていたかと思ひます。勿論今すでに挙げておられる訳ですが、これは心ある政治家に対して磁石の磁場みたいなものを作り出すことになる。もう、外にモデルを求めるといふ事には失敗もしているし、そんな後進国意識がある訳でもありません。我々は世界史の中の先端を行っているかも知れないです、そんな発展史観ではなくて、国柄を踏まえた政党政治を探求せねばならないと思ひます。

城内 そうですね、やはりそういう新しいようで日本の連綿と続く皇室や国柄に合った、西洋の借り物ではないものを一つ作りたいですね。正に先生が婦国子女とおっしゃいましたけれども、戦後本場の日本を誰も知らない訳ですね。私みたいな婦国子女だからこそ「ドイツと日本」という二つの価値観が違う生き方をする人達がいる。どちらが正しいのだろうか。あれ、待てよ、もしかしたら又別の価値観があるのではないだろうか。それはむしろ戦前にあったりするのではないだろうか」といふ事に気が付く訳です。

不思議な力を持つ日本語

井尻 私は城内さんのお話しを伺いながら、昭和維新運動をやった人達が考えた事と繋がっているなという思いを

深めてます。それは昭和、戦前の言葉でいえば「国体論」というか、この国の固有の歴史を大事にする、決してアングロサクソンというか欧米に学ぶのではなくて、自らの歴史をずっと辿って政治のあるべき姿を再構築するという意味では、日本に今必要なのはそういう歴史感覚で政治を考える、そういう時を日本は迎えている。だから平成維新という言葉を使えば、政治家の皆さんはお使いになると宜しかろうと私は思うのですがどうでしょうか…。

城内 そうですね。これは決して復古ではなくて、新しい正しい道に転換していくという事です。特に私の捉え方というのと、一九世紀、二〇世紀が物質文明の時代であったのに対して、二一世紀は精神文明の時代であるということ。イギリスの産業革命から始まって、どちらかということアングロサクソンが中心となり、一方で金融はユダヤが支配して、というある意味では世界の中のマジョリティーではない一部の民族が中心となって近代化が進んできた訳です。しかし我が日本民族というのは、島国だからかも知れませんが、非常に長い間、万邦無比の皇室を戴いておりますし、精神的なものは非常に高い。そしてまた日本語という、特殊かどうかはわかりませんが、神の言葉に近いのではないかと思われるぐらいに非常に微妙なニュアンスや感性、霊性を表現し得る希有な言語を持っている。この

るのではないかなという感じがします。

井尻 城内さんの今のお話で前半の方で日本語の潜在的能力のようなものを非常に敏感にお感じになられている。考えてみれば八世紀の万葉集を今日の国民が読めるという言語の連続性、それから和歌というもので繊細さと洗練度というものをここまで極めてきた千数百年の日本語の歴史というものを考えると、これは世界的に希有ですね、日本語だけでしょう。

城内 魂に微妙に響いてくる数少ない言語だと思えます。幼少時も含めて一〇年、人生の四分の一を外国で過ごした、しかも外務省出身の私でもわかります。この日本語というのは一体どんな言葉なんだろうなどと本当に不思議なのです。

井尻 城内さんはドイツ語の達人として私は認識しているから、城内さんがやはりそういう日本語に出会っているというのは素晴らしい事ですね。

城内 私は当選したので、今やろうとしている事が二つあるのです。一つは、そうはいっても外国人に日本語で説明してもわからないという人は多いので、今「デイリー読売」という英字新聞を一所懸命読んで英語を磨き直して、日本政治を一〇〇%ではないにしてもいかに外国人の方々に伝えるかという努力です。もう一つはこれは長年の私の課題だったのですが、そろそろ正字正仮名遣いを使おうと

の事実を考えると、二一世紀というのは正に日本民族のそういう精神的なものが求められる時代なのです。決して私は別に「和服を着ろ」とか戦時中のように「撃ちてし止まって戦争をしろ」とか言っているわけではありません。むしろそれは日本精神の神髄とは違った次元のもので。そうではなくて心の問題として、日本人が日本人に立ち返っていくという時代です。そして日本民族の使命というのは環境や、平和を大切に、そしてお互いの違いを認めながら努力した人は一割増し、努力しなかった人は二割減かも知れないけどできるだけ皆で共存共栄していくということ。この精神、日本的な考え方が世界をリードしていくのが二一世紀なのです。私が兄弟のように似ていると言っているアメリカと中国は、そういう精神的なものも大事にしているかも知れませんが、どちらかというとならマナーや軍事力とかパワーという非常に即物的なものをこよなく愛しているように思います。そういう意味では本当にそっくりです。あれだけ多様な民族とか色々な矛盾を抱えておきながら、信ずるものはマナーとパワーと軍事力という、もう二〇世紀の遺物のような人達が未だ力を持っています。でもアメリカにも中国にも良識ある国民がいる筈です。そういう人達に訴え掛けて、新しい二一世紀の共存共栄型の世界を日本がリードして作っていく。この事を神は求めてい

思っています。ただそれをいきなりやると「お前は右翼だ」とか言われるので余り書きませんが、日記とか私的なものについては遣っていきたくと思っています。やはり今の日本の仮名遣いはおかしい、だから精神的にも何か引掛かるのではないのでしょうか。こじつけかも知れないけど、正しい仮名遣いと正しい字を使うという事を戦後怠っているから、色々な教育上の問題だとかが出てきているのではないかなという気がするのです。別にこれは復古主義とかいうものではありませんが、やはり正しいのです。正しい仮名遣いをしてこなった事のつけが今出てきているのではないかなという感じがするのです。

井尻 それは福田恆存さんが国語問題で強調して止まなかった事で、私は福田さんと数回お目にかかった経験があります。私は三五年ジャーナリストとして新聞記事を書いていたのですが、漢字は当用漢字の範囲内で書くとか仮名遣いは勿論現代的な仮名遣いで歴史的仮名遣いは無視するのです。福田さんに「国語問題は私なりに考えました。でも生業として現代仮名遣いを使用していますのでお許し下さい」と言ったら「わっはっは」と笑ってましたけどね。政治家・城内実さんが日本語の力というものに気が付いて、そうやって言葉にする、素晴らしいことだ。その日本語というのは和歌という表現形式で繊細と洗練と霊性というも

のを磨き続けて今日まで来た。素晴らしい財産を持っているんですよ、日本は。

城内 日本語では、単なる音声記号とかじゃないですよ。本当に不思議ですけど。だから和歌にしろ俳句にしろ横文字で外国語にそのまま訳せと云って無理ですよ。まあそういう試みもありますけども、やはりニュアンスも含めて訳すのは難しいのではないのでしょうか。

井尻 それはある種の限界はあるのだろうけど、竹本忠雄さんというフランス語の達人ですけど、彼が中心になって皇后陛下の御歌をフランス語に訳しました。これがヨーロッパのフランス語圏では反響が物凄く良いのです。ヨーロッパの歴史から見ると、皇后陛下が素晴らしい詩人である、ポエトである、この事が驚くべき事なんです。ヨーロッパだとやはり詩と哲学というのが最も高く位置付けられていますから。確かに和歌を他言語に移す事は困難という事は当然だろうけど、しかし無効ではないです。物凄く有効なんです。ですから竹本さんのそういう経験とヨーロッパの反響を聞きながら、翻訳というものは勿論限界がある事はお互いに承知していますが、しかし決して無駄ではない。物凄い意味があります。

城内 やはりそういう日本のものとか、そういう人の感性、霊性というのはある程度伝わるのでしょうか。

そうだったのかも知れませんが、経済が大事だという事はわかっていて事なので、政治家は経済以外の事に情熱を燃やしてほしいと思います。そういう意味で城内さんが今日お話しされた事は、戦後の政治を振り返ってみると極めて画期的な政治家が登場しつつあると、私はそういう期待を抱きます。城内さん、画期的ですよ、あなたのような政治家は。

城内 いやいやとんでもない。まだまだ発展途上ですよ……。

井尻 多分、城内さんは演説しながら今のような事を選挙民に伝えていたのでしょう。だからライバルを圧倒的に離して当選したのではないかなと私は今そのように改めて思います。あなたが表現していた事を選挙民はちゃんと受け取ったのではないかな。

城内 あるとすれば、そのようにこつこつ地道にやる、正に農耕民族型ですよ。変に欧米型の悪い意味でのパフォーマンスをしない事です。もう一つはやはり国家国民の為に信念を貫くこと。万民幸福のためにブレない、媚びない、投げ出さないというスローガンで黙々とやる。これは古来日本民族の得意とするところではないでしょうか。

井尻 あるいは日本人が一番心を動かされる、日本人の琴線に触れているのかも知れないですね。

井尻 そう。それが正にスピリチュアリティというか霊性という事なんです。ヨーロッパの知識人達が霊性を感ずる。その事は物凄く知的にも高いイメージなんです。そういう事にどれだけの政治家達が気付いているのか。政治家達にはそういう事に気付いて日本の国柄に合った素晴らしい政治を是非やってみてほしいですね。

城内 やりたいですね。今年が一つの転換期、良い意味での転換期になればと思っています。

雌伏四年の選挙活動

井尻 是非転換期にしてほしいですね。確かに戦後を振り返ってみると、本当に焼け跡闇市から再スタートしてこまでの国富を築いたという事は、私は国民学校一年で終戦を迎えていますから、ほぼ同時代を生きてきた人間として、これはやはりそれなりに認めなければいけないと思います。その上、ここまで物質的といえますか経済的なのが付きまじったから、ここから先は政治家達がまるでエコノミストのような話しかけてないと思えば、これは大問題で、政治家が経済以外の話しをどれだけできるか、それを今試されているのだと私は思います。城内さんは今日は殆んど経済の話はしませんでしたね。勿論私との対談ですから

城内 琴線……、結果としてはそうだったのかも知れないですね。はつきりいうと、同じ土俵で戦ったり争ったりしては駄目だという事を、私は古事記を通じて思いました。一次元も二次元も高い次元でやるという事を学びました。

井尻 しかもそれを選挙民はちゃんと直感したのではないのでしょうか。

城内 相手に色々と誹謗中傷されようが無視して、逆にさせておく。

井尻 雌伏何年でした？

城内 四年でしたね。

井尻 四年か。雌伏四年でしかしよく頑張りましたね。僕は敬意を表します。しかも七万五千票という差を付けて当選してしまっただけ。これは何かあるんですよ、そこに城内さんが何を発して選挙民の心を掴んだのか。これは戦術論的な意味よりも、もっと高いレベルの事です。これをよく考えて分析すると、日本の政治家の進むべき方向が見えてくるんじゃないかな、と思います。それは結局、物や利権の配分というレベルの政治でなく、非常にスピリチュアルな霊性に富んだ政治というものの予感を感じましたのではないのでしょうか。これ大事な経験だと思えます。ですから城内さん、御自分の事で言にくいかも知れないですけど、どうやって選挙民の心を掴んだか逆に選挙

民からいえば何かを城内さんに託した訳だろうけども。そこに深い意味が隠れさせている。

城内 自分の選挙区は一つの自分の国という訳ではないですけれども、やはりそこに住んでいらっしやる人達がファミリーという感覚な訳です。同時に地名や字名みたいなものも沢山あります。そういうものを極力覚えると、その土地に対する愛着、御先祖様が呼んできた地名を、単に浜松市佐久間町というのではなくて、佐久間町には山香地区、城西地区と浦川地区と佐久間地区があり、更にその中にも字がある訳です。岩井戸だとか大滝、大輪、鮎釣、仙戸という集落にはたった六軒か十軒しかありません。でもそこにもできるだけ足を運びます。人の名前と年齢、その隣に誰が住んでいたかなど。すぐ思い出せないけど、そのぐらい細かく覚えるのです。やはりそこに先祖代々住んでいる人達もいますし、そのエリアが私の選挙区な訳ですから、やはり土地を愛し人を愛し御先祖様を愛し、さつきも言ったようにお宮でその地域の安寧をお願いするという事までやっている人というのは余りいないのではないのでしょうか。

井尻 それはいいでしょうね。それが城内さんらしい選挙運動なんで、俗っぽい言い方をしては失礼かも知れませんが、やはり国土の愛し方というか、そういうものを選挙民が敏感に感じ取ったと考えると、城内さんが大勝だった

に靡かない。

井尻 それは素晴らしい美徳なのですが、やはり権力奪取は時間との戦い、一刻も早く決断してもらわないと困るのです。

城内 何時までも在野で私を含めて三人だけの小さな平沼グループという訳にいかないので、今水面下で自民党の皆さん、あるいは良識ある人達、そして民主党もなかなか今は大きな声を挙げられませんが、民主党の中でも「いかん」と思っている人達が少なからずいらっしやいます。私はそういう人達と平沼先生の橋渡しみたいな事ができればなと思っています。

井尻 是非そうしていただきたい。同時に遠からず城内さんに日本を背負っていただく。そういう意味で大いに頑張っていたいただきたいし、ちょっと言葉が乱暴過ぎるけど暴れていたいただきたいと思います。

た事もわかりますね。

又話しは戻りますが、城内さん、平沼さんの背中を押し下下さい。やはり城内さんが今話したような事を平沼さんはわかる人だと思えます。私は城内さんと平沼さんは政治家としての共通性は非常に多いと思えます。だから信頼関係があるのだらうと思えます。国民はそういう平沼、城内に、旗を高く揚げてくれと期待しています。そうすれば隠れキリシタンじゃないけど、今まで隠れていた人達もがいつせいで出て来るのではないかと思うのです。私はそれを城内さんをお願いしたいですね。

城内 私は平沼先生に天下を取ってほしい、総理大臣になつてほしいと思っています。今まで、誰とは言いませんけれど、過去この五五年体制以降の自民党の中でならなくともいいような人がなつた例もあります。大変失礼に当たるので誰とは言いませんけど。平沼総理になつて日本を正しく変えてほしいなと思っています。

井尻 本当に平沼さんが総理になつたらこの国は変わりますよ。それは間違いないでしょう。

城内 ワンフレイズ・ポリテイクスというのですか、そういうテレビ受けするような事をおっしゃらないところが良いのです。国民を騙さない訳です。本当に国家を愛し国民を愛する方ですから。しかもブレない、媚びない、権力

城内 私はどつちかというところ、楽観的です。悲観はしないのです。やはりピンチの時もこれは何か更に飛躍する為に与えられた神の試練で、これを乗り越えようと二倍ぐらいになつて返ってくるのではないかと楽観的に捉えるので、今の閉塞感溢れる政治状況というのは次なる新たな道が展開される、政治の変革の兆しではないかなと思っています。

井尻 その期待は選挙区を越えて全国民のものですよ。それぞれ政治家は選挙区をお持ちでしょうけれども、それは政治家になる必須条件ではあるけれども、しかし一億二千万のこの国の政治家ですから、そういう意味で今年が勝負の年だと思えますので、どうぞ宜しくお願い致します。

城内 わかりました。御指導を宜しく願います。
井尻 今日はいいお話しが伺えました。ありがとうございます。